

俵屋宗達「扇面散図屏風」の高精細複製品を金沢美術工芸大学に寄贈 寄贈作品を含む6作品を同大学内にて一般公開

特定非営利活動法人 京都文化協会（以下、京都文化協会）とキヤノン株式会社（以下、キヤノン）は、社会貢献活動「綴プロジェクト」（正式名称：文化財未来継承プロジェクト）の第16期作品として制作した、米国・スミソニアン国立アジア美術館所蔵「扇面散図屏風」（俵屋宗達 筆）の高精細複製品を、金沢美術工芸大学（石川県金沢市）へ寄贈します。寄贈を記念して、2023年11月27日（月）から12月1日（金）まで、寄贈作品を含む6作品の高精細複製品を同大学内にて一般公開します。



「扇面散図屏風」高精細複製品 * 展示イメージ

■ 「扇面散図屏風」の高精細複製品を金沢美術工芸大学に寄贈

「扇面散図屏風」は、江戸時代（17世紀）に描かれた作品で、保元の乱・平治の乱や伊勢物語などのさまざまなモチーフが描かれた多数の扇子の絵が金屏風に貼り付けられています。オリジナルの文化財は、米国・スミソニアン国立アジア美術館が所蔵しています。同美術館の所蔵作品は、設立者の遺言により門外不出とされているため、現地を訪問しない限り、鑑賞することができません。高精細複製品を制作することで、日本絵画の名品とされる本作品の日本への里帰りが実現しました。

制作にあたっては、キヤノンのフルサイズミラーレスカメラ「EOS R5」でオリジナルの文化財を撮影し、独自開発のカラーマッチングシステムを用いた画像処理を行った上で、12色の顔料インクを搭載した大判インクジェットプリンターで出力しています。さらに、京都の伝統工芸士が金箔などを用いた装飾を施し、屏風に仕立てることで、オリジナルの文化財を限りなく忠実に再現しています。

金沢美術工芸大学のある石川県金沢市は、本作品の作者である俵屋宗達ゆかりの地とされています。寄贈作品は今後、同大学内の一般公開エリアなどにおける展示や、大学内で行われる授業での活用が予定されています。

■ 寄贈作品を含む6作品の高精細複製品を金沢美術工芸大学内にて一般公開

11月27日（月）から12月1日（金）まで、寄贈作品や「松林図屏風」（長谷川等伯 筆）などの石川県にゆかりのある作品を含む6作品の高精細複製品を同大学内にて一般公開します。オリジナルの文化財は、作品保存の観点から大切に保管されており、鑑賞の機会が限られています。今回の一般公開では、ガラスケース無しで間近で作品を鑑賞できるほか、写真撮影も可能とし、高精細複製品ならではの作品鑑賞を楽しむことができます。

〈寄贈作品を含む 6 作品の高精細複製品一般公開の開催概要〉

1) 開催概要

- 展覧会名：俵屋宗達 筆「扇面散図屏風」高精細複製品寄贈記念展示
「日本美術の名品 -石川県ゆかりの絵師を中心に-」
- 会 期：2023 年 11 月 27 日（月）～12 月 1 日（金）
- 会 場：金沢美術工芸大学（石川県金沢市小立野 2-40-1）
アートcommons A（4 号館 2 階）
- 開催時間：10：00 ～17：00（ただし、会期初日は 14：30 開始、最終日は 16：00 終了）
- 休 館 日：会期中無休
- 入 場 料：無料
- 主 催：特定非営利活動法人 京都文化協会、キヤノン株式会社
- 共 催：金沢美術工芸大学
- 後 援：北國新聞社

* 上記は変更になる場合があります。最新情報は、金沢美術工芸大学のホームページをご確認ください。<https://www.kanazawa-bidai.ac.jp/>

2) 展示作品

- 「扇面散図屏風」高精細複製品（原本：俵屋宗達 筆、スミソニアン国立アジア美術館 所蔵）
* 「綴プロジェクト」第 16 期作品、金沢美術工芸大学へ寄贈

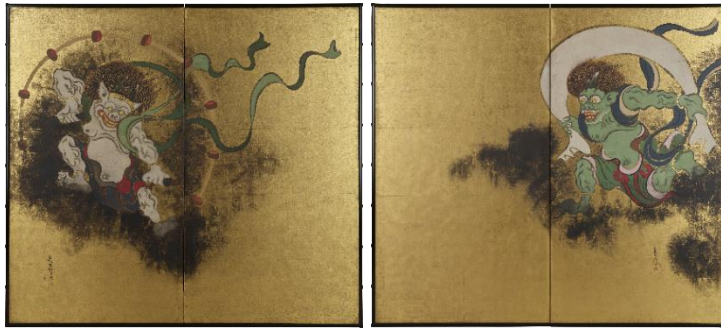


Tawaraya Sōtatsu / Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution, Washington, D.C.:
Gift of Charles Lang Freer, F1900.24

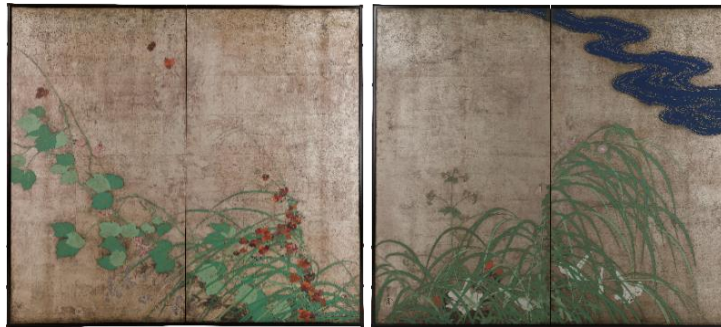
- 国宝「風神雷神図屏風」高精細複製品（原本：俵屋宗達 筆、大本山建仁寺 所蔵）



- 重要文化財「風神雷神図・夏秋草図屏風」高精細複製品※1 ※2
 (原本：尾形光琳／酒井抱一 筆、東京国立博物館 所蔵)



「風神雷神図屏風」



「夏秋草図屏風」

- 国宝「松林図屏風」高精細複製品 (原本：長谷川等伯 筆、東京国立博物館 所蔵) ※1



- 国宝「檜図屏風」高精細複製品 (原本：狩野永徳 筆、東京国立博物館 所蔵) ※1



※1. 独立行政法人国立文化財機構とキヤノンによる「高精細複製品を用いた日本の文化財のための共同研究プロジェクト」により制作。

※2. 「風神雷神図屏風」(尾形光琳 筆)と「夏秋草図屏風」(酒井抱一 筆)の原本は、現在は作品保存の観点から別々の屏風に仕立てられています。高精細複製品では作品が描かれた当時の姿を再現し、表裏一体となっています。

- 国宝「納涼図屏風」高精細複製品（原本：久隅守景 筆、東京国立博物館 所蔵）



〈「綴プロジェクト」について〉

「綴プロジェクト」は、京都文化協会とキャノンが 2007 年より共同で推進している社会貢献活動です。日本古来の貴重な文化財には、歴史の中で海外に渡った作品や国宝として大切に保管されている作品など、鑑賞の機会が限られているものが多くあります。「綴プロジェクト」では、キャノンの入力、画像処理、出力に至る先進のデジタル技術と、京都伝統工芸の匠（たくみ）の技との融合により、オリジナルの文化財を忠実に再現した高精細複製品を制作しています。制作した高精細複製品は、文化財にゆかりのある社寺や自治体、博物館などへ寄贈し、寄贈先での一般公開や学校教育の現場など、さまざまな場面で活用されています。これまでに、葛飾北斎や俵屋宗達、尾形光琳の作品など、全 60 作品の高精細複製品を制作しました。

詳細は、「綴プロジェクト」のホームページをご参照ください。 <https://global.canon/ja/tsuzuri/>